

ブルゴーニュ小史(1)

フランスのなかでブルゴーニュ地方は、ケルトのラ・テーヌ文明(前5世紀以降)の中心に近く位置していた。このことがローマのカエサルがガリア征服におけるケルトとの最後の決戦の地としてブルゴーニュ地方のアレジアがえらばれた理由でもある。そこでケルトの全軍を結集してカエサルと対決したヴェルキンゲトリクス(フランス読み:ヴェルサンジェトリクス)は戦略的に敗れて軍門に下り、やがてローマ化がガリア全体に浸透してゆく。

いわばブルゴーニュ地方はフランスの基層にあったケルト終焉の地でもあり、あたらしいローマ化の出発点でもあったわけだ。かつてローマを敵視したガリアの貴族たちはやがて、ローマの位階勲章を求め、ユリウスや後のアウグストゥスがガリアでは洗礼名となり、ローマ風の都市が次々と建設されるようになったのである。アウグストゥス時代、オートンはガリア・ローマの中心となった。それは行政的というよりは知的で大学的な文化をもつ都市となった。そこにアポロンやヤヌスの神々も祀られたのである。

これに似たのが、マコン、アレジア、アヴァロン、サトネルで、発掘調査が、強いイタリア化(ローマ化)を十分に証拠づけているものである。それとともにモルヴァンやソーヌ河流域に開拓民が入り、灌漑と森林開拓にいそしみ、ケルト的なラ・テーヌ文化をもっていたこれらの農村も次第にローマ化されてゆく。

紀元前1世紀以来、ブルゴーニュ地方の丘々に葡萄栽培がローヌ河渓谷の方から入って来た。ここでは、こわれやすい壺に入れて葡萄酒をはこぶやり方にかわって木の堅固な樽に入れてはこぶ方法がとられるようになったのである。こうした産物は、リヨンやセーヌ河流域、ベルギー北のガリアへゆく古くからの道路によってはこばれ、繁栄を次第にたかめて行った。アンドレ・モロワはこの点を次のようにかいている。

「当時、農業に対する嗜好、土地への愛着が発展した。これらはガリア・ローマ人がフランス人に伝えることになった。ローマの平和(パックス・ロマーナ)によって無政府状態から救い出された初期の世代の生きるよろこびは想像にあまりがある。(中略)いたるところに、ローマ風の道路に沿って、地中海地の新しい家々、円柱や回廊や大理石又は陶器の彫像で飾られた別荘がそびえていた。(中略)数十年前まではガリア人は森の真中の粘土の小屋に住んでいた。ところが今や、ガリア・ローマ人は開墾し、耕作し、裕福になり、自分らの土地からあがる産物を、いつもガリアの穀物とガリアの豚肉に垂注しているローマに売りつけるようになった。」(『フランス史』)

これも征服後、3世紀の頃、ローマがガリアの安全を維持し、非武装地帯をもうけ、蛮族を近づけなかったからである。

しかし275年ごろから、守備隊がローマ人では形成されなくなり、やがてそれに代わって蛮族が兵士となり、ゲルマンがガリア全体を荒しまわるようになり、ブルゴーニュ地方もその例外ではなくなった。しかしローマの官僚制度は徴税だけは懸命にとり立てたので「ガリアは氣息奄々となる」(アミエヌス・マルケルス)に至った。ローマは制度を立て直そうとしたが不可能に近く、356年にはついにオートンも蛮族の手に落ち、あれだけ栄えた葡萄栽培も荒廃してしまう。

しかし丁度この時期にキリスト教がブルゴーニュ地方に浸透して来たのである。それは、オートンやソーニクにあった、シリアやアジアの商人たちによってつくられた移民の共同体の中にまず持ちこまれたのである。教会は4世紀のはじめにつくられた。有名な聖マルタンはこの地方をかけまわり、布教しながらローマ時代の異教のやしを砕きにかかっていた。オートンの最初の司教はレティスであった。このあたりから、やがて中世にむかって全ヨーロッパに拡がるキリスト教高揚の地としてのブルゴーニュ地方が歴史にその姿をあらわすようになる。またコンスタンティヌス帝以後、ローマ帝国はキリスト教化されたのでバジリカ会堂が教会に改造され、信者の礼拝に用いられるようになる。この教会がローマ教皇によって制度化され、ローマ帝国が実績的に行政的能力を失うようになってゆくと、逆に司教が行政に介入し、一つの権力に変わるようになった。ここに中世に至るまで何故司教がしばしば都市の権力をもつに至ったかという理由がある。

さてブルゴーニュ地方にはフン族によって追われ、ライン地方からやって来たスカンディナヴィアに属するブルグンド族が定着するようになった。それはアルプスからジュラにかけてであり、ローマ帝国の支持を得、476年ごろにはディジョンにまで達した。この民族の名前、「ブルグンド」が現在のブルゴーニュの名前のもととなったのである。その王はゴンドボーという名前である。(続)

Château de Chailly シャトー・ドゥ・シャイイ

中世がいまだに息づいているブルゴーニュにいらっしやいませんか?数々の銘酒を生み出すぶどう畑、グルメレストランの数々、中世そのままの街並、美しく広がる大地や小さな村々、豊かな生命力と「はだのぬくもり」を感じる地方、それがブルゴーニュです。

お問い合わせは(株)佐多商会ブルゴーニュ事業部へどうぞ

TEL:03-5762-3010 担当:岩沢、田中

